NHK大河ドラマ「平清盛」放映

いざゆかん 平家ゆかりの地 伊勢志摩

清盛楠

平家の赤旗

伊勢古市の武士

知盛塚

清盛堤

八ヶ竈

平家の里

伊勢平氏

青峯山正福寺の夫婦杉

知盛山久昌寺

平成24年のＮＨＫ大河ドラマは「平清盛」です。
この清盛を輩出した平家一門は、旧伊勢国で発祥した武士の一族。のちに京都に進出し、栄華を誇ったとされています。三重県伊勢志摩地域には、平家ゆかりの地がたくさんあります。
歴史ロマン漂う平家ゆかりの地を是非一度訪れて下さい。

伊勢平氏

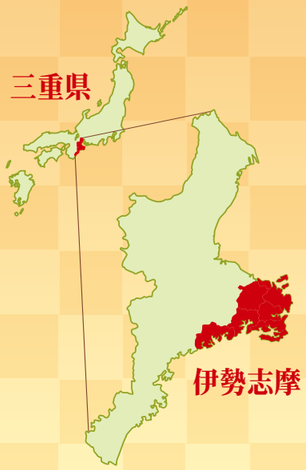
平清盛を輩出した一族

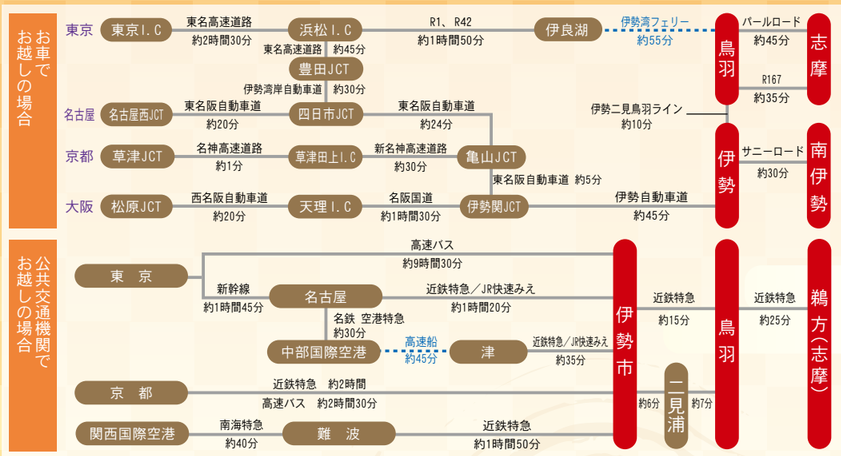
承平天慶の乱で活躍した平貞盛（さだもり）の四男である、平維衡（これひら）よりはじまる平氏一族のひとつで、伊勢を中心に勢力を拡大させた。５代目の平忠盛以後、中央政界に進出し、そして忠盛の子である平清盛が武家としてはじめて政権を樹立した。

伊勢古市の武士

平清盛を源氏から守った武士

平治の乱の最中、清盛は都をあけ、重盛（しげもり）らを率い紀州に向かって熊野詣へ出かけていたが、源氏が起つと聞くやいなや、伊勢古市の武士らが清盛の一行を守り、他の伊勢武士団が活躍。その甲斐あって、清盛らは都に帰りつけたという。
平氏滅亡後、伊勢には服部、伊藤、斎藤など、平家の一族が多く生き延びた。





社団法人　伊勢市観光協会
〒516-0074　三重県伊勢市本町14-6
TEL　0596-28-3705　　FAX　0596-27-1049
URL　http://www.ise-kanko.jp/

伊勢市観光企画課
〒516-8601　三重県伊勢市岩渕1-7-29
TEL　0596-21-5565　　FAX　0596-21-5522

平家ゆかりの地マップ

1 清盛楠（きよもりぐす）

外宮、表参道沿いに佇む大楠

平清盛が勅使として参向したとき、木の枝が冠に触れたため西側の枝を切らせたという伝承によって、この名で呼ばれる。記録によれば清盛は勅使として神宮を３度訪れている。樹齢1000年に近いといわれる清盛楠は二本のように見えるが実は一株の大木である。

【場所】伊勢市（外宮の表参道沿い）

2 清盛堤ゆかりの碑（きよもりづつみ）

神宮から清盛に依頼したとされる「清盛堤」

この地域では水害が多くあったため、治承年間に清盛が命じて堅牢な堤を建造したと云い伝えられている。現在では、宮川に大堤防ができた事で水害も起こらなくなり、次第に壊され田畑となっていった。

【場所】伊勢市（ＪＲ山田上口駅周辺）

3 平家の里（へいけ さと）

「勢州伊勢の国　覆盆子谷（いちごたに）」といわれる平家の谷

壇ノ浦の戦いにて源氏に敗れ自害したと伝えられている平清盛の四男・知盛。だが、確かな証拠はなく、従者30人とともに平家の再興を願い、伊勢の船江に上陸し、伊勢平氏の所縁により外宮の長官・横地光忠の保護を受けてこの地に隠れ住んだと云われている。

【場所】伊勢市（矢持町・横輪町）

4 知盛山久昌寺（ちせいざんきゅうしょうじ）

清盛の四男、平知盛を草創として建立した寺

久昌寺は知盛が平家一族を弔うため、創建したと伝えられる曹洞宗の寺である。本尊の阿弥陀如来に添えられた文からは、「承久3年（1221年）8月20日の胎内銘があり、西海に沈んだ平家を弔ってこの仏を造らせた」ということがうかがえる。

【場所】伊勢市（矢持町）

久昌寺には平知盛の古位牌が2つ存在し、軸部だけのものは15世紀末頃のものと思われる。位牌裏面の3月17日は知盛の命日かもしれないと云われている。

5 知盛塚（とももりつか）

久昌寺背後の小高い場所にある五輪塔

壇ノ浦の戦いで源氏に敗れた平知盛は自害したと言われているが、実は平家の再興を願い伊勢市矢持町まで落ちのび、再起をはかるために隠れ住んだと云われている。この五輪塔は、平知盛を供養している。

【場所】伊勢市（矢持町）

6 平家の赤旗（へいけあかはた）

平家ゆかりの蝶の模様が描かれている旗

平家の落人伝説が残る磯部町五知の福寿寺に赤旗が保存されている。この旗は室町期に作られたものであるが、ここへ落ちのびた平氏の子孫が南北朝から戦国時代の動乱期に勢力を誇示するために作られたのではないかと云われている。

【場所】志摩市（磯部町五知）

福寿寺

八ヶ竈八幡神社の碑

八ヶ竈八幡神社

平氏鎧塚

棚橋竈に残る「平氏鎧塚」は、鎧などの武具を納めた証に建てられた碑だと思われる。

7 五十鈴川（いすずがわ）

「御裳濯川（みもすそがわ）」という別名を持つ清流

義経千本桜という人形浄瑠璃の芝居の中に、平清盛の孫である安徳天皇が壇ノ浦で入水する場面がある。その時、安徳天皇の祖母が水の中にも都はあるからと抱きかかえて安心させた時に、安徳天皇が返した有名な台詞の中に御裳濯川が出てくる。

安徳天皇が返した台詞
「今そ知る、御裳濯川の流れには波の底にも都ありとは」

【場所】伊勢市

8 八ヶ竈（はちがかま）

竈方祭

確かな文献が残る、貴重な平家の落人伝説のある集落

南伊勢町（旧南島町）には、「竈」が付く地名が多く見られる。これらは平家の残党がわずかな耕地を開き、塩を作って生計を立てていた集落で、南北朝から戦国時代の動乱期に復活を期し積極的に活動していたと云われている。2年に一度、古文書が納められた「御証文箱」と目録を照らし合わせる儀式である『竈方祭』が大方竈で行われる。

【場所】南伊勢町

『八ヶ竈』のうち、赤崎竈は、安政元年の津波で流されて廃村。現在は新桑竈、棚橋竈、栃木竈、小方竈、大方竈、道行竈、相賀竈（現在は相賀浦）の七つになってしまった。

9 青峯山正福寺の夫婦杉（あおのみねさんしょうふくじのめおとすぎ）

青峯山正福寺

平清盛がお手植えした樹齢約850年の巨木

青峯山の正福寺境内にある夫婦杉は平清盛がお手植えしたと伝えられている。かつては、根元を一つにして寄り添って二本あったが、伊勢湾台風によって男杉が倒れてしまったため、現在は女杉のみが残る。

【場所】鳥羽市（青峯山）

女杉